

「加藤みや子現代ダンス公演」

2013年9月25日及び26日、在ドミニカ共和国日本国大使館は、ベジャス・アルテス講堂、国際ダンスフェスティバル事務局と共催・協力の上、下記の通り「加藤みや子現代ダンス公演」を開催いたしました。公演後、大半の観客がスタンディングオベーションを送るなど、極めて高い反応を得ることができ、当地著名ダンサーや一般市民の皆様から、日本の現代舞踊のレベルの高さに感動したとの感想が多く寄せられました。

第9回現代ダンスフェスティバル（9月25日～10月6日）事務局からの要請を受け、日本より加藤みや子ダンススペースによる作品「Voice from Monochrome」を紹介いたしました。同作品は、地球がうねりを起こしたような津波、東日本大震災「3.11」を一つの基点として、土と水、命の行いへうたいつづける体を描きます。消滅しては生まれる命の静けさとエネルギーのダンスは、アジア的多神教の水平思考の中に有り、広い意味で日本の文化の歴史と「3.11」を受けた現在を表出するものです。

ドミニカ共和国では初めて紹介される日本の現代ダンスが第9回現代ダンスフェスティバルの初日公演を飾りました。

9月25日（水） 19：30 初日開会式

20：30 公演

9月26日（木） 20：30 公演

場所：ベジャス・アルテス劇場

*初日公演は無料、2日目は、入場料100ペソ（当日劇場にて販売）。

プロフィール

加藤みや子：加藤みや子ダンススペース主宰。森嘉子、藤井公・利子に師事。78年文化庁派遣研修より帰国後、加藤みや子ダンススペース設立。振付家・ソロダンサーとして多くの先鋭的な作品を発表し高い評価を受ける。主な受賞に、東京新聞主催全国舞踊コンクール第1位文部大臣賞や舞踏批評家協会賞、江口隆哉賞、ニムラ舞踊賞他。



〈公演中〉



〈公演後に挨拶するダンサー達〉